

令和6年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	24	学校名	伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校	記載者	松本 仁美
------	----	-----	------------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	関係者評価・意見
安全・安心	生命の尊さや人とのつながりを大切に、一人一人の良さを受け入れ、互いを思いやる心の醸成	・各学部の経営計画に基づき、児童生徒の命が守られていると答える教職員や保護者（AB100%）	A	A	
		・信頼できる教職員に向けて、自身の行動を振り返ることができた教職員（AB80%）	B	A	
	命のつながりを実感する食育の推進	・給食センターと連携し、安全な給食提供ができたと答える教職員及び保護者（AB90%）	A	A	
		・食と各教科等の関連を意識した指導をした教職員（AB90%）	B	B	・命の尊さを知ると一緒に、生きるために命もいただいているということも学んでほしいと思う。
児童生徒の命を守る安全教育の充実	・緊急時の対応や防犯防災訓練をとおして、児童生徒の安全を守る行動を身につけた教職員（AB100%）	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、生徒、教員、地域の方々の防災の意識はその都度、再確認をしていっていただきたいと思う。 ・災害発生時を想定した地域の方との防災訓練を行っていくことが必要なのではないかを感じる ・防災に対する学校の意識を認識した。 ・校外活動で地震関係の海拔表示の確認をしていたのもよかった。 	
専門性	主体的・協働的・深い学びによって、資質・能力を育成する授業実践	・児童生徒の学びを見取り、適切な目標設定と評価ができた教員（AB100%）	B	B	
		・ラーニングマップの活用による授業づくりを行い、実践後に授業改善を進めた教員（AB100%）	B	B	
	特別支援教育の専門性の向上	・障害の特性に応じた支援や学習指導要領に基づく研修ができた教員（AB100%）	A	A	・障害という形で捉えるのではなく、その子の個性に応じた支援や学習指導となっていけると素晴らしいと思う。
		・PCやタブレットの活用により、授業準備の効率化や学習の定着に効果を得た教員（AB90%）	A	A	

様式第5号

連携	キャリア教育の視点で小中学部、高等部のつながりと、児童生徒の願いや夢を大切にされた進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の系統性や将来を意識して指導できた教員 (AB90%) ・児童生徒に応じた適切な情報提供や、進路指導ができたと答える教員及び保護者 (AB90%) 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・令和になり昭和そのものが否定され多様性の言葉のもとに、自己責任が薄くなり、不備の正当化が顕著である。その世の中で活躍するのは「素直さのある特別支援学校の生徒たち」だと思う。人と会った時のあいさつが自らでき・自己紹介ができ・お礼がいえる この3つが生徒が自身で自身を守る最大の武器とを感じる。
	保護者や地域住民との協働を推進し、地域と共に歩む学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部において、適切な交流を計画し、地域に貢献できたと感じる教職員 (AB100%) ・地域を活用した学習活動をとおして、児童生徒が意欲的に学んだと感じる教職員及び保護者 (AB100%) 	A	A	
				A	
チーム学校	特別支援学校のセンター的機能の充実及び関係機関との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・センター的機能による成果の整理及び検証 (毎学期) ・学校内外の情報共有と、支援会議やケース会議等での案件の整理及び成果の検証 (毎学期) 	A	A	
	教職員一人一人が責任をもった業務遂行と、やりがいを感じる働き方の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアステージと自己目標シートに基づき、自身の役割を理解して経営に携わった教職員 (AB100%) ・計画的な業務遂行のために努力し、働き方を改善できた教職員 (AB90%) 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の役割を果たす=望ましい経営となるように一人一人の役割を明確化するのは良いと思う。 ・教員の食事、運動、睡眠、リフレッシュの質と時間が高くより多く得られる運営を願う。
				B	